

北九州市民の会ニュース

共同センターが共謀罪反対宣伝行動

北九州憲法共同センターが毎週土曜日11時から共謀罪成立阻止をめざし宣伝行動を取組んでいます。6月3日(土)、小倉駅前広場に健和会、北九州地区労連、新日本婦人の会、北九州のうたごえ等から34人が参加し、署名52筆を集約しました。マイクでの訴えは、共同センターの野瀬事務局員、新日本婦人の会の植山さん、健和会からは門岡労組書記長、市職労の唐野さん。途中うたごえの仲間が共謀罪阻止、安倍内閣退陣を求める歌を披露しました。楽しい、元気の出る宣伝行動でした。(堀田和夫氏FBより)



「いかなよ貧困・福岡の会北九州連絡会」が学習会

6月3日(土)、「いかなよ貧困・福岡の会北九州連絡会」が、池田和彦筑紫女学院大学教授を招き、「貧困・格差是正と生活保護・年金引き下げ違憲訴訟」について学習会を開催しました。「生存権保障と2つの社会保障裁判を統一してたたかうことの意義」と題して、分かりやすく講演してくれました。

「いかなよ貧困・福岡の会」(正式名称:生活保護基準引き下げ、年金引き下げ違憲訴訟を支援する福岡の会)は、2015年10月に結成しました。北九州連絡会は、今回の学習会を皮切りにして、北九州市での宣伝や加入のよびかけ、財政活動などの支援を進めていくことにしています。構成は、北九州地区労連、年金者組合北九州協議会、北九州生存権裁判を支える会、北九州市生活と健康を守る会協議会、北九社保協などです。



健和看護学院と母親大会

健和看護学院には、「自治と人権」という

授業科目があります。この授業では、毎年北九州母親大会に参加し、そこで学んだことをベースにして、興味を持った社会問題をグループワークで調べ、検討した結果をまとめて発表します。今年も1年生79名が母親大会に参加、分科会のテーマを深め、6月5日、発表大会が開催されました。原発問題、福祉・医療・介護問題、働き方の問題、国際紛争問題、共謀罪等について、各グループは、パワーポイントによるプレゼンテーションをしました。どの発表も、学生さんの自主的な主張と努力が感じられました。「看護師を目指す私たちは、社会に起こっていることを、これからもっと学び勉強していきます。」という学生さんの決意は、クラス全員が共有しているように思いました。(文責 三輪俊和)



249回さよなら原発金曜行動

さよなら原発!北九州連絡会による小倉駅前の金曜行動は、6月9日(金)に249回目を迎えました。この日のスピーチには、田村貴昭衆議院議員が参加し、さよなら原発を熱くアピールしました。青井さんの進行で、深江事務局長・棚次代表、高瀬県議の訴えがあり、最後はシュプレヒコールで閉めました。いよいよ来週(6月16日)は、250回となる節目の金曜行動です。多くの市民のみなさんの参加が期待されます。



平和と暮らしを守る北九州市民の会
〒803-0817 小倉北区田町13-21 田町ビル3F
093-592-5000 FAX093-571-4346
<http://siminnokai.sakura.ne.jp>
e-mail;koe@siminnokai.com

北九州市民の会ニュース

北九州地区労連が第71回評議員会

北九州地区労連は、6月9日(金)18時30分から戸畑生涯学習センターで、第71回評議員会を開きました。評議員会は、9月10日の第29回定期大会に向けて、役員定数の確認、役員検討委、選挙管理委員の選出、第3四半期の収支報告、決算見込み、暫定予算、2017年春闘の総括、夏季闘争方針(案)などを提案し、5人の評議員の発言で補強された議案はすべて満場一致で承認されました。来賓として、北九州憲法共同センター代表の前田弁護士が参加し、極めて重要な局面になった共謀罪の廃案を求めるたたかいについて、「6月14日に小倉駅前広場で廃案をめざす集会を開きます。多くの組合員の参加を！」と訴えました。

(堀田和夫さんFBより)



北九州「働き方」学習会に82名

6月10日(土)日本共産党県・北九州各委員会主催の「働き方」学習会が開催された。田村貴昭衆議院議員の国会報告、道下地区労連事務局長の「北九州市の労働者の状況」の報告の後、基調講演は、筒井晴彦氏(党中央委員会国民運動部)が「あなたの職場は大丈夫? ~安倍・労働法改正とILOの基準~」について詳細な資料集を活用しながら、論理明快に変革の理論を解説し感銘を与えました。資料集は「8時間働けばふつうに暮らせる社会を」「世界が重視する最低賃金制の役割」「人間らしい労働時間をめざして」「リストラ対策かんれん」の4部作。大変有意義な学習会であった。



村野藤吾の 八幡市民会館をもっと知る 「市民学習会」

6月10日、市民学習会の会場(八幡東生涯学習センター講堂)は、熱心な参加者でいっぱいになった。「文化遺産としての八幡市民会館」についてドコモモ(近代建築保存の国際組織)日本支部幹事の笠原一人氏(京都工芸繊維大学助教)が講演した。



<講師から寄せられた講演概要>

八幡市民会館は、八幡市(当時)の戦後復興と発展をリードした守田道隆市長の依頼により、後に文化勲章を受章する建築家・村野藤吾が設計し、1958年に竣工したものです。八幡製鉄所にちなんだ赤茶色のタイルに覆われ、ギリシャ神殿のようにシンボリックで堂々とした、それでいて軽快で清しい姿を見せています。それは戦後民主主義を象徴し、八幡の戦後史を体現する優れた文化遺産であり、村野藤吾ならではの作品だと言えます。竣工後60年近くにわたって市民に親しまれてきた、この建物の文化遺産としての価値と今後の可能性について考えてみたいと思います。

次回「八幡市民会館の活用を求める連絡会」は、6月20日(火)13:30大谷市民センター

今後の予定

- 06/23(金)251回さよなら原発金曜行動
18:00~19:00 小倉駅デッキ
- 06/29(木)映画「母」総括実行委員会
18:30 生涯学習総合センター
- 06/30(金)252回さよなら原発金曜行動
18:00~19:00 小倉駅デッキ
- 07/01(土)憲法連続講座
14:00~16:00 戸畑けんわ5F
北九州憲法ネット主催